

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3990600029
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム やまざくらの里
所在地	〒785-0024 高知県須崎市安和中ノ川内693
自己評価作成日	平成21年9月1日
評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年9月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990600029&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家や田畑に囲まれた静かな環境の中で、事業所理念である「ほほえみ、支え合い、安らいだ生活を共に」を念頭に、入居者と職員が楽しみながら散歩や家事等の活動を行っている。また、音楽療法士、ボランティア（合唱サークル、ギター演奏等）の方々の受け入れを積極的に行い、外出が難しい入居者の方にも外部との接触が持てるよう支援している。事業所の取り組みとしては、低所得者と重度の要介護者の入居受け入れを積極的に行っており、地域福祉に貢献できるよう努めている。また、グループホームでの生活が困難になった場合は、希望があれば、法人内の介護保険施設等のサービスが利用できるようフォローアップ体制を整備している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山里に囲まれた落ち着いた田園風景のなかの事業所である。地域との支え合いについては事業所側から積極的に取り組み、清掃等の行事に参加したり、地域の祭りの見物などしている。利用者も近くの保育園児と交流したり、散歩や買い物時に地域住民に挨拶し、昔からの知人と会話するなど、馴染みの関係を築いている。また、事業所では、介護度が高くても分け隔てなく受け入れ、職員は、利用者一人ひとりに応じて「安らいだ暮らし」が提供できるよう、日夜頑張っている。今後も、地域住民との協力関係や支え合いの関係を深め、地域のグループホームとして発展していくことが期待される。

自己評価および外部評価結果

ユニット名 かわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有については、採用時に説明を行い、理解してもらっている。また、職員会を通じて、定期的に確認し合い、実践に活かすよう取り組んでいる。	事業所独自に「ほほえみ、支え合い、安らいだ生活を共に」する地域密着型の理念を作り上げ、職員は、地域との支え合いを大切にケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、広報誌を配布してもらうなど日常的に交流している。また、地域の清掃活動への参加や散歩等を行うことで、地域住民の方々とも馴染みの関係もできている。	自治会に入会し、自治会の総会や神祭等への参加、保育園との交流など、地域との交流に努めている。しかし、地域住民が事業所を訪れることは少ない。	事業所は、地域活動へ参加したり、散歩時に近隣の方々とあいさつするなど、地域との関わりに努めているので、今後は、地域住民の方々に事業所を訪れてもらえるよう、催しの開催を工夫されるなどの取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区会に参加した際に、グループホームでの入居者の方々の生活の様子等を話し、認知症を理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催している。前回の会議での検討事項等については、結果を書面にて報告している。会議には地区の民生委員、自治会長にも参加してもらっている。	事業所で取り組んでいることや、利用者、入居希望者の状況、前回の運営推進会議での検討事項等の報告を行い、委員からも意見等が出されている。	運営推進会議では、委員からより一層率直な意見を引き出し、具体的な課題について話し合うなど、工夫されることが期待される
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催するケア会議や相談員との意見交換会、グループホーム連絡会等に可能な限り参加しており、協力関係を築くことが出来ている。	行政が主催するケア会議やグループホーム連絡会等に参加するとともに、事業の運営について相談し、助言をもらうなど、日頃から協力関係づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員が十分に理解が出来るよう研修や勉強会にできる限り参加し、身体拘束は行っていない。日中も施錠はせずに開放的な生活援助を行っている。	研修や勉強会を通して、管理者をはじめ職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束のないケアに取り組んでおり、日常的に言葉の拘束について、職員同士で注意し合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、虐待についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員会等を通じて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明を行い、十分に理解、納得をしていただいた上で入居していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に定期的に訪問していたり、入居者の立場に立った意見をいただいている。また、家族からの率直な意見等は家族会で出して頂いている。頂いた意見については、職員会で報告を行い、運営に反映させている。	家族会が結成され、3カ月毎に開催されている。出された意見等については、申し送り帳に記載し、職員間で共有はしているが、対応についての記録は残していない。	家族会開催時には、家族のみで話し合う機会を設定し、気軽に意見等を出し合える工夫と、家族の意見等への対応についても記録に残し、職員間で共有することが求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で全職員からの意見、提案を聞いている。上がった意見等については、上司に報告し、提案を行っている。	職員会等で、職員の意見や気づきを聞き、運営に反映させている。また、内容によっては、毎月の法人の全体会に報告、相談するなど、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に、職員の個別面談等も行っており、個々の能力に応じた指導や能力開発に努めている。また、研修情報を提供し、職員間で共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人事教育部を設置しており、そこが主となり、研修や勉強会を無償で行っている。また、外部の研修についても職員会で共有し、積極的な参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や地域の関係事業所が集合する会議には積極的に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や本人の思いを受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面会を行い、入居者本人のこれまでの生活歴や入居申し込みに至る経緯を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居相談を受けた際は、法人内外とも連絡をとり、出来る限りの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知る事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、本人の日頃の状態等を報告し情報を共有することで、本人を支えていく為の協力関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	通い慣れた美容院への支援を続けて行っている入居者もいる。入居者と買い物に出掛けると知り合いに会い、会話が弾むこともある。	昔から利用している美容院や商店等に利用者が出かけて、知り合いと交流するなど、入居前の生活が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、関係が円滑になるように働きかけている。心身の状態や気分で感情が変化することもある為、常に注意し見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽にホームを訪問して頂けるよう声を掛け、必要に応じていつでも相談に応じる姿勢である。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して、希望、意向の把握ができるよう努めている。	日々の暮らしの中で声かけし、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握の困難な利用者には家族から情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴の把握に努めている。また、家人や知人等の訪問時に可能な範囲で会話をし、これまでの生活環境をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人が出来ることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会でカンファレンスを実施し、入居者個々のの現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、長期目標6か月、短期目標3か月で作成している。利用者の状況に変わったことがあれば、プランは随時見直している。利用者、家族の希望等はプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員で情報を共有する為に、申し送りノートを活用し、全職員が確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や入居前のかかりつけ医で医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望に沿って、かかりつけ医に受診している。協力病院の受診は職員が対応し、かかりつけ医は家族で対応することを基本としているが、家族が対応できない場合は職員が柔軟に対応している。受診結果は、申し送り簿に記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師との連絡を密にとっている。日頃から気軽に相談できる関係が築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーや家族との連絡を密にとり、出来る限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を定めており、入居時にはご本人、ご家族に説明している。また、かかりつけ医との連絡も密にとれている。	契約時に、利用者、家族に看取りについての意向を聞き、同意書もらっている。指針に沿って事業所で対応できる支援に取り組むようにしているが、家族や医療関係者との具体的な話し合いには至っていない。	今後は、本人や家族、事業所側の状況等の変化の度に話し合いを行い、事業所の対応しうる支援等について、ケア関係者と意向を確認しながら、対応方針を共有していくことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力を得て、救命救急法等の学習や訓練を職員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線を設置している。消防署の協力を得て、通報、避難、消火訓練を行っている。	避難訓練は、定期的に消防署の協力のもとで実施しているが、近隣の住民の参加はない。火災時の避難路、避難経路は職員に周知され、消火器も所定の場所に設置されている。災害時に備えた食料品等については、3日間分の目安からすると十分とはいえない。	災害時には、地域住民の協力が欠かせないので、事業所の避難訓練に地域住民の参加を呼びかけるとともに、非常用の食料等の準備については、高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルをもとに、検討することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日々、利用者と同じ空間で過ごし、入居者の状況を把握するように努めている。夜間は、手元にナースコールを置いている。	利用者は地元の方が多く、職員一同利用者のプライバシーの保護については留意しているが、多忙時に、つい大きな声で排泄の声かけをしたり、また、難聴の利用者に対して、他の利用者に分かるよう大きな声で声かけする場面が見受けられる。	他の利用者に分かる様な声かけは、利用者の誇りやプライバシーを損ねる場合があるので、日常的な確認と改善に向けて検討されることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話を通して、入居者の思いを知り、実現できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通じて、本人との会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望にそった援助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援できるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人本部の管理栄養士が立てたものを使用しているが、調理や後片付けは入居者と共に行っている。会話もしながらゆっくと楽しめるように心掛けている。	献立は法人本部の栄養士が立てているが、野菜等の差し入れがあった時は随時変更している。調理、食事、後片付けは、それぞれの利用者の有する能力により、下ごしらえ、味付けなど職員と一緒にしている。職員は、法人本部の方針で利用者と同じものを食べてはいないが、同じテーブルを囲み食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を摂取されている方もいるが、それだけに頼らず、食べやすいもの等で様々な工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行うようにしており、出来る方は声かけ見守りを行い、ケアが不十分な方には、援助し清潔を保ち、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、入居者の様子から敏感に察知し、必要に応じた援助を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、上パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導し、おむつはずしに取り組んでいる。介護度が高い利用者が多く、おむつやポータブルトイレを使用している利用者もいるが、排泄パターンに沿った定時誘導など、さりげなく対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方も下剤だけに頼ることのない様に、水分を十分に摂ったり、歩行運動を行う等、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況から一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、本人の身体状況を確認し、毎日の入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。	入浴時間は、14時30分から16時30分の時間帯に決めており、この時間内で、利用者の希望に沿って入浴の支援をしている。希望があれば毎日でも入浴は出来る。	入浴は事業所の決めた時間帯ではなく、利用者一人ひとりの生活習慣やその時々希望に合わせて、入浴支援ができることが望まれる。現状の職員体制の中で工夫され、利用者の習慣や希望に沿った入浴ができる仕組みを検討されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その日の体調や表情を見極め、その状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量等が変更されたり、本人の状態の変化が見られた時は、記録はもちろん、申し送りノートにも記載し、職員全員が周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることや好きな作業を見つけ出し、季節の山菜の皮を剥いたり、干し大根を作る等、入居者の経験や知恵を発揮できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て、花見等に出掛けている。	年に3回程度は花見、ドライブ等に行っているが、日常的な外出支援は、介護度が高い利用者が多いため、あまり出来ていない。	外出は、その人らしく暮らし続ける支援のため重要であり、重度の利用者も含め、日常的に外出できるよう、個別の支援を検討し、工夫されることが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払が出来るように支援している。家族の協力を得て、小額の金銭を管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族に電話をかけて直接会話してもらったり、手紙の書ける方はお便りに直筆で書いてもらうよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お茶の時間には、心地良い音楽を流したり、季節を感じてもらえるような花を活けたりしている。	菊やすすきなど、季節の草花が活けられ、また、窓からは事業所の周囲の草花の香りが漂い、季節感を肌で感じる事ができ、また、利用者はそれぞれ思い思いの場所でくつろぐなど、生活感のある共用空間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関にベンチを置き、常時、花を活ける等、居心地の良い空間を作るように心掛けている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、使い慣れた物を持参して頂くように、ご家族に説明を行っている。</p>	<p>仏壇や、馴染みのタンスを置くなど、それぞれ個性的な居室となっている。利用者の心身の状態に応じて、家族と相談し、家具や荷物を選んで置いている。夜間、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、日中はプライバシーに配慮し、片づけられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの表示を大きくしたり、夜間、トイレの電気を消さない等、安全な環境づくりに努めている。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名： かわせみ	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11. 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: さくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有については、採用時に説明を行い、理解してもらっている。また、職員会を通じて、定期的に確認し合い、実践に活かすよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、広報誌を配布してもらうなど日常的に交流している。また、地域の清掃活動への参加や散歩等を行うことで、地域住民の方々とも馴染みの関係もできている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区会に参加した際に、グループホームでの入居者の方々の生活の様子等を話し、認知症を理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催している。前回の会議での検討事項等については、結果を書面にて報告している。会議には地区の民生委員、自治会長にも参加してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催するケア会議や相談員との意見交換会、グループホーム連絡会等に可能な限り参加しており、協力関係を築くことが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について職員が十分に理解が出来るよう研修や勉強会にできる限り参加し、身体拘束は行っていない。日中も施錠はせずに開放的な生活援助を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、虐待についての知識を深めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、職員会等を通じて学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に沿って説明を行い、十分に理解、納得をしていただいた上で入居していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員に定期的に訪問していただき、入居者の立場に立った意見をいただいている。また、家族からの率直な意見等は家族会で出して頂いている。頂いた意見については、職員会で報告を行い、運営に反映させている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会で全職員からの意見、提案を聞いている。上がった意見等については、上司に報告し、提案を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課表を基に、職員の個別面談等も行っており、個々の能力に応じた指導や能力開発に努めている。また、研修情報を提供し、職員間で共有している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内に人事教育部を設置しており、そこが主となり、研修や勉強会を無償で行っている。また、外部の研修についても職員会で共有し、積極的な参加を呼び掛けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームとの交流や地域の関係事業所が集合する会議には積極的に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や本人の思いを受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面会を行い、入居者本人のこれまでの生活歴や入居申し込みに至る経緯を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居相談を受けた際は、法人内外とも連絡をとり、出来る限りの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知る事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、本人の日頃の状態等を報告し情報を共有することで、本人を支えていく為の協力関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容院への支援を続けて行っている入居者もいる。入居者と買い物に出掛けると知り合いに会い、会話が弾むこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、関係が円滑になるように働きかけている。心身の状態や気分が感情が変化することもある為、常に注意し見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽にホームを訪問して頂けるよう声を掛け、必要に応じていつでも相談に応じる姿勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して、希望、意向の把握ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴の把握に努めている。また、家人や知人等の訪問時に可能な範囲で会話をし、これまでの生活環境をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人が出来ることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会でカンファレンスを実施し、入居者個々のの現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員で情報を共有する為に、申し送りノートを活用し、全職員が確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医や入居前のかかりつけ医で医療を受けられるように支援している。</p>		
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師との連絡を密にとっている。日頃から気軽に相談できる関係が築いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、病院のソーシャルワーカーや家族との連絡を密にとり、出来る限り早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した際の指針を定めており、入居時にはご本人、ご家族に説明している。また、かかりつけ医との連絡も密にとれている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力を得て、救命救急法等の学習や訓練を職員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線を設置している。消防署の協力を得て、通報、避難、消火訓練を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日々、利用者と同じ空間で過ごし、入居者の状況を把握するように努めている。夜間は、手元にナースコールを置いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話を通して、入居者の思いを知り、実現できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通じて、本人との会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望にそった援助に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援できるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人本部の管理栄養士が立てたものを使用しているが、調理や後片付けは入居者と共に行っている。会話もしながらゆっくりと楽しめるように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を摂取されている方もいるが、それだけに頼らず、食べやすいもの等で様々な工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行うようにしており、出来る方は声かけ見守りを行い、ケアが不十分な方には、援助し清潔を保ち、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、入居者の様子から敏感に察知し、必要に応じた援助を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、上パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方も下剤だけに頼ることのない様に、水分を十分に摂ったり、歩行運動を行う等、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況から一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、本人の身体状況を確認し、毎日の入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その日の体調や表情を見極め、その状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量等が変更されたり、本人の状態の変化が見られた時は、記録はもちろん、申し送りノートにも記載し、職員全員が周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることや好きな作業を見つけ出し、季節の山菜の皮を剥いたり、干し大根を作る等、入居者の経験や知恵を發揮できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	御家族の協力を得て、花見等に出掛けしている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払が出来るように支援している。家族の協力を得て、小額の金銭を管理している方もいる。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	御家族に電話をかけて直接会話してもらったり、手紙の書ける方はお便りに直筆で書いてもらうよう支援している。		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	お茶の時間には、心地良い音楽を流したり、季節を感じてもらえるような花を活けたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関にベンチを置き、常時、花を活ける等、居心地の良い空間を作るように心掛けている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、使い慣れた物を持参して頂くように、ご家族に説明を行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの表示を大きくしたり、夜間、トイレの電気を消さない等、安全な環境づくりに努めている。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名： さくら	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない